

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名正運輸 みよし打越物流施設	階数	地上2F
建設地	みよし市打越町山ノ神10番1 他3筆	構造	S造
用途地域	指定無し・工業専用/法22条地域	平均居住人員	80 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	10 時間/年
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年12月24日
敷地面積	23,588.48 m <sup>2</sup>	作成者	長瀬 暁人
建築面積	7,839.39 m <sup>2</sup>	確認日	2014年12月24日
延床面積	14,678.30 m <sup>2</sup>	確認者	坪井 仁志



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.6

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>16.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	16.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	16.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出  
 ④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>								
<b>1.1 騒音</b>								
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0
2 設備騒音対策						-	-	-
<b>1.2 遮音</b>								
1 開口部遮音性能						3.0	0.40	-
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	-
<b>1.3 吸音</b>						3.0	0.20	-
<b>2 温熱環境</b>								
<b>2.1 室温制御</b>								
1 室温						3.0	0.50	-
2 負荷変動・追従制御性						3.0	0.38	-
3 外皮性能						3.0	0.25	-
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-
5 温度・湿度制御						-	-	-
6 個別制御						-	-	-
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-
8 監視システム						-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>						1.0	0.20	-
<b>2.3 空調方式</b>						3.0	0.30	-
<b>3 光・視環境</b>								
<b>3.1 昼光利用</b>								
1 昼光率						3.0	0.30	-
2 方位別開口				南、東方向に開口を設けている。		3.0	0.60	5.0
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-
<b>3.2 グレア対策</b>								
1 照明器具のグレア						2.0	0.30	-
2 昼光制御						2.0	1.00	-
3 映り込み対策						-	-	-
<b>3.3 照度</b>						3.0	0.15	-
<b>3.4 照明制御</b>						3.0	0.25	-
<b>4 空気環境</b>								
<b>4.1 発生源対策</b>								
1 化学汚染物質						3.0	0.50	-
2 アスベスト対策						3.0	1.00	-
3 ダニ・カビ等						-	-	-
4 レジオネラ対策						-	-	-
<b>4.2 換気</b>								
1 換気量						3.0	0.30	-
2 自然換気性能						3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	-
4 給気計画						-	-	-
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視						2.0	0.20	-
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-
						1.0	0.50	-
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
1 広さ・収納性						2.7	0.40	-
2 高度情報通信設備対応						2.3	0.40	-
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-
1.2 心理性・快適性						3.0	0.33	-
1 広さ感・景観				事務所天井高を2.7mとしている。		2.0	0.30	-
2 リフレッシュスペース						4.0	0.33	-
3 内装計画						1.0	0.33	-
1.3 維持管理						1.0	0.33	-
1 維持管理に配慮した設計				風除室の高さを地盤面と変えることで、土砂を防ぐ。		4.0	0.30	-
2 維持管理用機能の確保				専用の清掃用洗し、水道を設置。		4.0	0.50	-
3 衛生管理業務						-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
<b>2.1 耐震・免震</b>								
1 耐震性						3.0	0.31	-
2 免震・制振性能						3.0	0.48	-
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.20	-
1 躯体材料の耐用年数				②		3.0	0.33	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.23	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.09	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.08	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.15	-
						3.0	0.23	-

2.4	信頼性				3.0	0.19			
	1	空調・換気設備			1.0	0.20			
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
	3	電気設備			3.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法			4.0	0.20			
	5	通信・情報設備			4.0	0.20			
3	対応性・更新性		②	耐震クラスA。 浸水の可能性がない。	3.3	0.29			3.3
	3.1	空間のゆとり			4.2	0.31			
		1		階高さ6m以上確保。	5.0	0.60			
		2			3.0	0.40			
		空間の形状・自由さ			3.0	0.31			
	3.2	荷重のゆとり			2.8	0.38			
	3.3	設備の更新性			2.0	0.17			
		1			3.0	0.17			
		2			3.0	0.11			
		3			3.0	0.11			
		4			3.0	0.22			
		5			3.0	0.22			
		6			3.0	0.22			
Q3	室外環境(敷地内)				-	0.39			2.4
	1	生物環境の保全と創出	●	③	2.0	0.30			2.0
	2	まちなみ・景観への配慮	●	④	3.0	0.40			3.0
	3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30			2.0
		3.1	●	④	2.0	0.50			
		3.2			2.0	0.50			
LR	建築物の環境負荷低減性				-	-			3.3
LR1	エネルギー				-	0.40			3.8
	1	建物の熱負荷抑制			BPI=0.76の結果による(補助ソフトの計算による)	5.0	0.04		5.0
	2	自然エネルギー利用				3.0	0.28		3.0
		2.1				3.0	0.50		
		2.2				3.0	0.50		
	3	設備システムの高効率化			BEIでの評価結果による(補助ソフトの計算による)	5.0	0.41		5.0
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			5.0				
		集合住宅の評価			3.0				
	4	効率的運用			3.0	0.28			3.0
		4.1			3.0	0.50			
		4.2			3.0	0.50			
LR2	資源・マテリアル				-	0.30			2.7
	1	水資源保護			3.0	0.15			3.0
		1.1			3.0	0.40			
		1.2			3.0	0.60			
					3.0	0.67			
		2			3.0	0.33			
	2	非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63			2.5
		2.1			3.0	0.07			
		2.2			3.0	0.25			
		2.3			3.0	0.21			
		2.4	●	②	1.0	0.21			
		2.5			-	-			
		2.6	●		3.0	0.25			
	3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22			3.0
		3.1			3.0	0.32			
		3.2			3.0	0.68			
					-	-			
		1			3.0	0.50			
		2			3.0	0.50			
		3			3.0	0.50			
LR3	敷地外環境				-	0.30			3.2
	1	地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出量が基準の79%。	3.8	0.33		3.8
	2	地域環境への配慮				3.5	0.33		3.5
		2.1			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25		
		2.2				3.0	0.50		
		2.3				3.2	0.25		
			●			3.0	0.25		
			●			3.0	0.25		
			●			4.0	0.25		
						3.0	0.25		
						2.3	0.33		
	3	周辺環境への配慮				3.0	0.40		2.3
		3.1				3.0	0.33		
			●			3.0	0.33		
			●			3.0	0.33		
						3.0	0.33		
		3.2				1.6	0.40		
						1.0	0.70		
						-	-		
						3.0	0.30		
		3.3				2.3	0.20		
						2.0	0.70		
						3.0	0.30		

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

(仮称)名正運輸 みよし打越物流施設

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.7\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>	
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10		
<b>② 資源の有効活用</b>					<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19		
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12		
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>	
		(評価ポイント)			
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)名正運輸 みよし打

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 適切なボリュームを確保しつつ、高さを抑えることで周辺の景観に配慮した。また内部の作業効率を高めるため機能的な平面計画とした。さらに緑地を外周部に設けることで、周辺の環境に配慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事務所は2面に開口を設けることで、自然光利用に努めている。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 倉庫部分は天井高6.0m以上、事務所部分でも2.7m確保し、建築の利用者が広く感じられる空間にすることで、心理性・快適性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物を2階建てとし、建物高さを抑えることで周辺の景観に配慮した。また建物を敷地中央部に配置することで、周囲への圧迫感を軽減し、周辺環境へ配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高効率蛍光灯を採用し、エネルギーの削減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 主要水栓に節水コマを設置し、節水に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に十分な駐車と転回スペースを設けることで、周辺道路の交通に悪影響を及ぼさないように配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。